

12/14/2006  
Ver. 2.00

「環境マネジメントシステム」  
という考え方

日時：  
教室：

第十一回講義

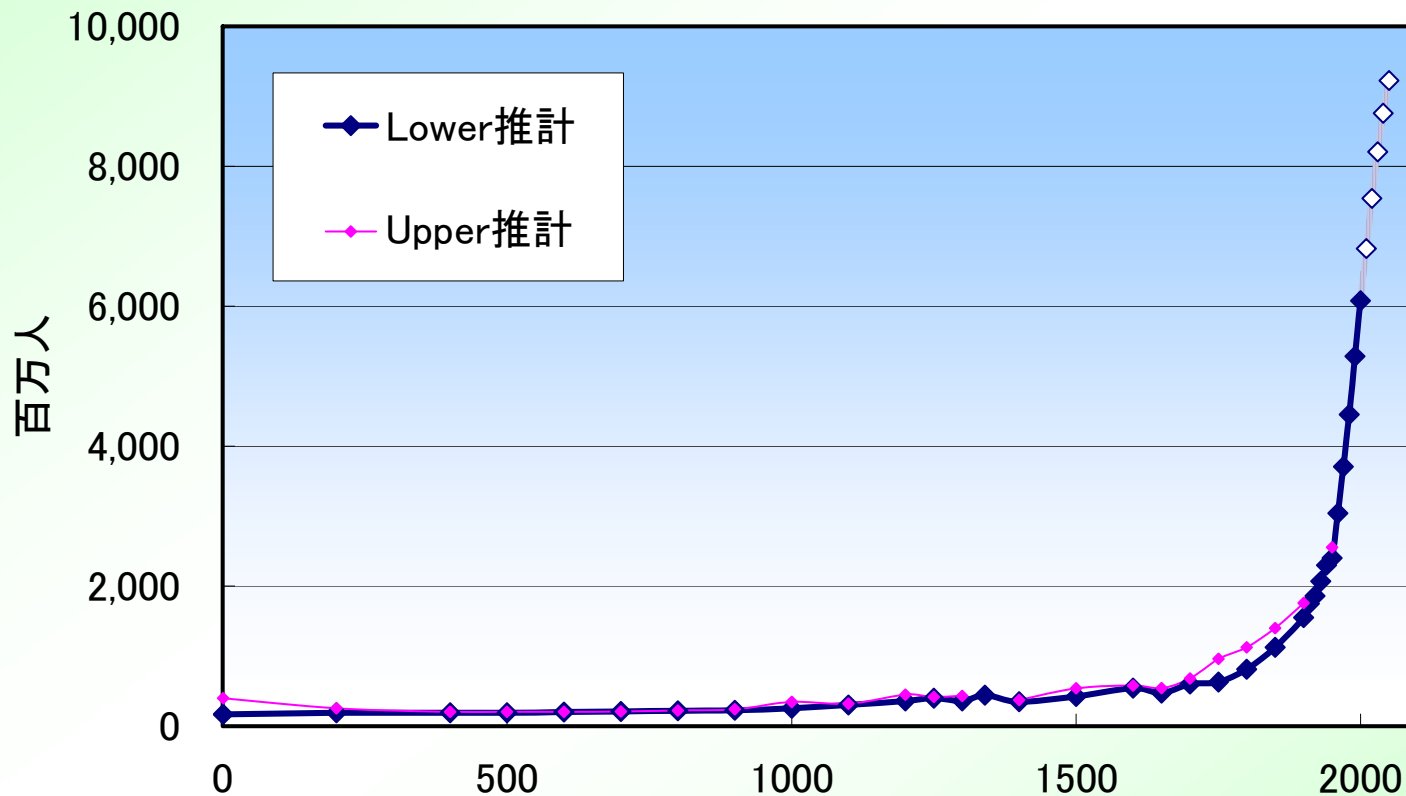
地球環境問題に対する理解  
－環境マネジメントシステムとの関係

北海道大学公共政策大学院  
倉田 健児  
kurata@hops.hokudai.ac.jp

# 地球の有限性に対する認識

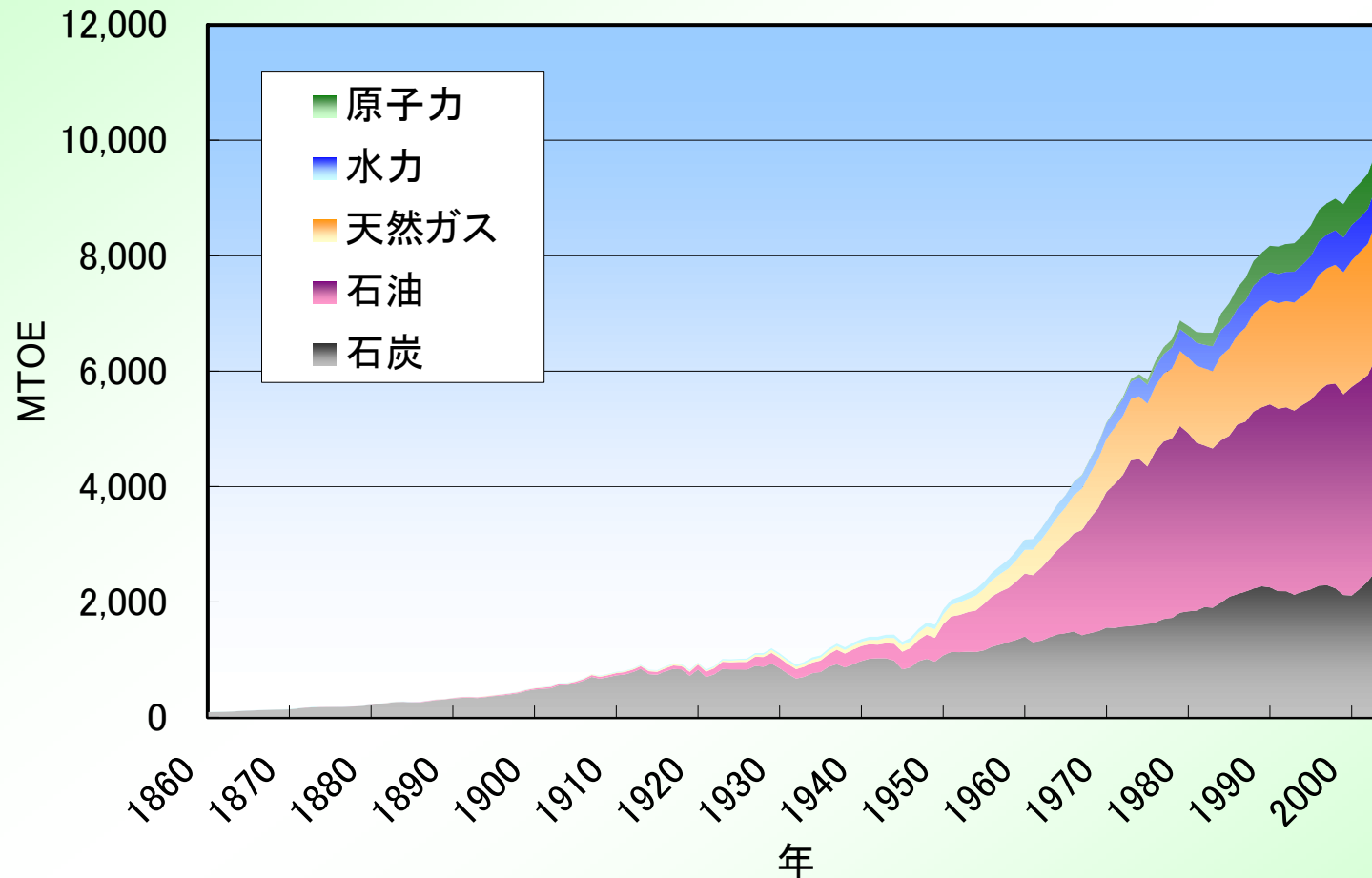
- 1798 「人口論」
  - 人口の増加と食糧生産の増加とを比べ、前者が後者を必ず上回る傾向
- 1966 「宇宙船地球号」
  - 量に頼る経済のあり方に警鐘
- 1972 「成長の限界」
  - 地球の有限性との文脈の中で、人口増加や食料、資源の供給不足に加え、「汚染」を俎上に

# 超長期にわたる世界人口の推移



出所: U.S. Census Bureau, Population Division

# 世界のエネルギー供給の推移



出所:BP統計, Oil Economists' Handbook, World Energy Supplies, Energy Statistics Yearbook などから作成

# 地球環境問題をどう理解するか

- 個々の地球規模の問題
  - 地球温暖化
  - オゾン層破壊
  - 酸性雨
  - . . .
- 人間活動にともなって発生する環境負荷が、地球環境に対し十分な大きさに
- 地球環境は人間活動を許容し得ない状態に

物理的な事象から、**属性的な問題**としての理解へ

# 属性的に捉えた場合の解決の途は

- 人間活動の特定一側面を捉え、それに起因する個別事象の対策だけではなく、
- 人間活動全てにわたり地球環境に対する負荷を減じる観点からの行動が必要

But

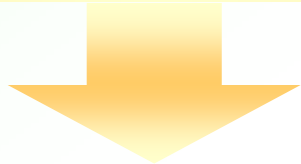
- 我々の行動全てに個別具体的な行動基準を定めることは、事実上不可能
- 仮に定め得たとしても、我々の行動全てが規準に従う事態は望ましくはない

# では、どうしたら・・・


- 個々の行動に対して従うべき具体的な基準を設けるのではなく、
- 我々の行動全てに関し、環境負荷を極力減じるという観点からの行動を**自らの意志**においてとる、
- こうした行動様式を強かに**誘導する枠組み**が求められるのではないか

# なされたことの意味は・・・

UNCED以前の憲章類策定などの取り組み



「誘導する枠組み」の導入を目指したもの



「環境マネジメントシステム」という名で、  
UNCED文書に反映



# 地球環境問題と環境マネジメントシステム

包括的な属性で理解

- ・地球環境の有限性
- ・人間活動に起因する環境負荷の増大
- ・地球環境の持続性に対し人間活動は既に堪え難い大きさ

人間活動がもたらす環境負荷の低減

地球環境に対する負荷を低減するという規範に沿って我々の行動全般を誘導する枠組み

- ・環境マネジメントシステム

## 地球環境問題の解決

個別問題毎に理解

- ・地球温暖化
- ・オゾン層破壊
- ・熱帯雨林の減少
- ・砂漠化の進展 等

個別問題の解決

問題毎に対応した解決の枠組み

- ・気候変動枠組み条約
- ・オゾン層保護条約

# 従来型の取り組みとの関係

- 地球温暖化
  - 気候変動枠組み条約 → 温室効果ガスの排出削減
- 酸性雨
  - 長距離越境大気汚染条約 → 酸性雨原因物質の排出削減
- オゾン層の破壊
  - オゾン層保護に関するウィーン条約 → オゾン層破壊物質の排出削減

補完関係

環境マネジメントシステム

# まとめ-1 地球環境問題の「顕在化」

- 地球環境問題を構成する個々の物理的事象は、相当に以前から事象としての存在は認識されていた
- こうした事象が、解決すべき問題として社会に認識されたことで、地球環境問題が登場、すなわち「顕在化」
- 「顕在化」の背景には、社会の環境意識の向上が存在

# まとめ-2 地球環境問題の捉え方

- 個別の物理的な事象として捉えるか、それとも問題発生で属性で捉えるか
- 「人間活動に起因する環境負荷の増大」により発生しているとの問題属性で捉える場合には、これに対応した新たな解決のための考え方が必要
- この考え方として「環境マネジメントシステム」が登場

# まとめ-3 環境マネジメントシステムとは

- 環境に関する組織の行動規範を採択し、
- この規範に沿った具体的な環境行動目標を設定し、
- 設定した目標の達成を目指して行動することを約束し、
- 約束した行動を確かに実施していることを組織の外部に対して証明

# まとめ-4 地球環境問題の解決に向けて

- 「人間活動に起因する環境負荷の増大」を減じることが、解決への方途
- 我々の活動の全ての側面において環境負荷を減じるよう、我々自身が自らの行動を律することが必要
- 「環境マネジメントシステム」は、そのための法律的な規制ではない新たな手段